

第53回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和5年7月31日(月) 18:00~19:20

2 形態 web会議

3 出席者 53名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○「第4次岡山県がん対策推進計画」の策定状況について報告があった。7月4日に第1回がん対策推進協議会を開催し、第4次計画骨子案の協議を行った。現在素案を策定中で、10月頃素案について協議し、来年2月頃次期計画が決定する予定である。

・基本理念「県民が、がんを知り、がんと向き合い、がんになっても自分らしく生き抜くことのできる岡山県の構築」に基づき、全体目標3点を案としてお示しした。

1 がん予防・がん検診の充実等による罹患率・死亡率の減少

2 全てのがん患者とその家族等の苦痛の軽減並びに療養生活の質(QOL)の維持向上

3 がんになっても安心して生活し、がんとともに自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現

・患者・家族への支援について、「がん患者のQOL向上」「患者参画の推進」を追加した。

・小児がん・AYA世代・高齢者のがん対策として、「妊孕性温存療法」「高齢者のがん対策の推進」を追加した。

・新たに「デジタル化の推進」と「非常時を見据えた対策」の項目を追加した。

出席委員より、第3次の最終的な評価はどのような形で公表されるのかと質問があった。

→岡山県：第3次の数値目標に対する現況については、来年度になって県のがん対策推進協議会で評価し、結果をホームページ等で公表する予定である。

→出席委員：県レベルでのPDCAは大切だと思うので、ぜひ本協議会でも結果を共有していただけるとありがたい。県の第4次計画においてPDCAの体制に対する記載、予定は何かあるか。

→岡山県：PDCAという文言を直接入れるかどうかは不明だが、現行計画においても評価をがん対策推進協議会で行うと記載しているので、第4次計画でも同様に進捗状況の報告をさせていただきながら関係者から意見をいただく形になるかと思う。

→出席委員：国の第4期計画で「希少がん及び難治性がん対策」が盛り込まれているが、県の第4次計画でもこの文言をどこかに盛り込むことができるか。

→岡山県：「希少がん・難治性がん」で1つの項目を立てることまでは考えていないが、国の全体目標で「誰一人取り残さない・・・」と示されているので、そこをふまえてどこかで言及するなど記載方法を検討して参りたい。

→出席委員：国の対策も進んでいるので、小児がん・AYA世代・高齢者も含めて希少がんもぜひ盛り込んでいただければと思う。

出席委員より、「デジタル化の推進」について具体的にどのようなことを意識しているのかと質問があった。例えば、マイナンバーを使用してどこでも情報が得られるようにするとか、具体的な方向性があればご教示いただきたい。

→岡山県：マイナンバー使用となると、がんに限らず診療全体の話となるのでそこまでは考えていない。例えば、第4期がん対策推進基本計画で「相談支援のオンライン化」が追加されたこともあり、できることからデジタル化を進めていきたいと考えている。

→出席委員：がん診療の地域連携についてのデジタル化は検討しているか。

→岡山県：現時点では地域連携のデジタル化は検討していないが、本協議会の地域連携部会が動いていく中でご意見があれば必要に応じて検討していく。

(2) 事務局・岡山大学病院

- 令和4年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、今後も情報提供いただきたいと依頼があった。
- 岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計(R5年度)について報告があった。
 - ・閲覧数については、例年同様「セミナー・講習会(医療関係)」が最も多く、「地域連携パス」「がん相談支援センター」と続く。訪問者は9割以上が初回、地域別では約8割が岡山県内となっている。

(3) 作業部会 等

① 地域連携部会

- 令和5年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績(R5.4~R5.6集計分)について報告があった。
 - ・パス使用実績合計では例年同様、倉敷中央病院が30件で最多であった。パスを使用しても保険点数の算定に至るには、患者・連携施設の同意や退院からの日数制限等の条件があり運用の複雑さから使えていない施設も多い。
 - ・今年後改訂予定の「胃がん」パスについて、各施設に連絡するので人選等の協力をお願いしたい。
- メディカルケアステーション(MCS)について紹介があった。昨年度開催した研修会のアンケートで「連携を推進する上で有用性が期待できるもの」としてMCSという回答が複数寄せられたため使用してみたところ、今後の地域連携ツールとして有用と思われたので紹介したい。
 - ・岡山市医師会と岡山市が共同で市内医療・介護関係者の共通ツールとして導入を進めている。
 - ・厚労省のガイドラインに準拠したセキュリティの高い完全非公開型SNSである。
 - ・すでに岡山市内の在宅医療従事者に普及しており、4~500名が登録して使用している。
 - ・大病院に勤務する医療従事者は知らない人も多い。自身が使用した経験から、連携に有用と思われたのでがん診療においても説明会を開催して周知を図っても良いのではないかと考える。

出席委員Aから、市が特定の民間アプリ1社をバックアップすることに議論はないのか参考までに教えていただきたいと意見があった。

→出席委員B：国が推奨するセキュリティレベルを有したツールとしか把握していない。

→岡山市：本件は岡山市医療政策推進課が管轄しているため、詳細は把握できていない。確認しておく。

② がん相談支援部会

- 5月29日にweb開催された第51回がん相談支援実務者会議について報告があった。
 - ・9月がん征圧月間について、例年に引き続き各施設のがん相談支援センターでパネル展示を実施する。図書館との連携展示は、前年度行った9施設に加えてさらに2施設へ依頼していく。
 - ・がん相談支援センターの周知について、岡山県のTV番組「晴れの国生き活きテレビ」で広報できないか県に依頼したところ、生き活きテレビとラジオで放送していただけることとなった。
 - ・昨年行った労働基準協会でのがん相談支援センター広報(岡山、倉敷)を今年度も行っていきたい。
 - ・今年度もがん相談員研修を行う。第1回を7月13日にテーマ『泌尿器科がん治療、妊孕性温存、生殖医療について』で開催した。
 - ・第20回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会(5月26日)において、厚労省から第4期がん対策推進基本計画とアピアランス支援モデル事業について説明があった。
 - ・PDCA実施状況チェックリストが更新されると報告があった。岡山県ではそのまま使用してPDCAを回しているわけではないため、新しい項目が出てきたからといってすべてを入れ替えるということはず、参考にさせていただくという立ち位置で進めたいと考えている。
 - ・アピアランスケアについて、第4期に上がってきたがすべてをがん相談支援センターで対応するというのではなく、患者の窓口となって必要なところにつないでいけたら良いとの話があった。
 - ・「施設別がん登録件数検索システム」が7月にリニューアルした。
 - ・今年度はPDCA3クール2年目で、昨年度の報告と本年度の取り組みについて各施設が報告を行った。
 - ・今年度はがんサポートガイドの改訂を計画している。拠点病院、一部の推進病院、患者会等でWGを開いて意見を募り、各分野の担当割を行い、9月15日原稿〆切で進めている。

③ 緩和ケア部会

○令和5年度緩和ケア研修会の開催予定について報告があった。

④ がん看護部会

○5月26日にweb開催された第64回がん看護部会について報告があった。

- ・今年度から教育・質評価・研修の3つの小グループに分かれての活動を開始した。
- ・研修グループは、「妊孕性温存について」をテーマにがん看護セミナーの開催計画を進めている。
- ・教育グループは共通スライドの見直しを行っている。まず、概論スライドから取り掛かり、6領域を順次見直していく予定である。
- ・質評価グループは、県内の拠点病院以外の医療機関や訪問看護ステーション等に、がん看護に対する課題や研修ニーズについてアンケート調査を実施することを計画している。現在アンケート内容について精査中であり、実施までにはもう少し時間を要する。
- ・アンケートの回答を分析し、本部会におけるPDCAを回していく計画である。
- ・岡山県がん薬物療法看護指導者研修を9月16・17日に開催する。本部会で再度アナウンスする予定であったが、本日募集定員に達した。

⑤ 研修教育部会

報告事項なし

⑥ がん登録部会

○6月19日にweb開催された第18回がん登録部会について報告があった。

- ・5月16日に開催された「2023年度 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」で報告があった、2023年度院内がん登録データ収集、がん登録実務者認定研修・試験、第3回患者体験調査の予定、院内がん登録全国集計データの利用等について情報共有した。
- ・岡山県から、院内がん登録患者にかかる生存確認調査の実施について報告があった。
- ・がん登録データの活用について、各施設から意見を出し合った。現在メール審議を続けており、まず実現可能なものから取り組んでいき、形にしたいと考えている。

⑦ がん薬剤師部会

○5月30日にweb開催された令和5年度第1回がん薬剤師専門部会について報告があった。

- ・5年を迎えた部会の今後の取り組みについて、PDCAを回していく方向で議論を重ねている。
- ・コロナが落ち着いてきたので、研修会を現地(対面)開催してはどうかという意見が上がった。
- ・病院/施設見学をして、情報共有や情報交換を行いたいという意見もある。
- ・経口の抗がん剤、ICI、投与後の副作用等について保険薬局薬剤師にも入っていただいて症例検討会を開いてはどうかという意見も上がっている。
- ・ファーストステップとしての座学の研修会は継続し、今後は少人数でのグループワークができるような症例検討会も進めていく方向で考えている。

⑧ 歯科部会

○倉敷歯科医師会主催の「歯の健康フェア」と岡山済生会総合病院 患者サポートセンター主催の第4回医科歯科連携推進研修会について報告があった。

- ・12月10日に、岡山大学主催で「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン 第15回歯科・口腔外科インテンシブコースを開催する。口腔がん治療、口腔ケア、医科歯科連携を盛り込んだ内容にする予定である。併せて、対面での部会開催も計画している。
- ・県の第4次計画骨子案に歯科関連の記載がなかったことについて、化学療法中に口腔ケアができていない患者の対策がどの施設も追いついていないと思われるので入れていただけるとありがたい。

⑨ がんゲノム医療部会

○がんゲノム医療部会活動実績について報告があった。人材育成が重要と考えており、毎月1回岡山臨床遺伝カンファレンスを開催して進めている。

- ・8月4日は「遺伝医療での看護師の役割」をテーマに行う。
- ・9月29日は演題未定だが、希少がんの肉腫に関する内容を予定している。
- ・10月25日は「周産期医療に関連した遺伝学的検査の最新動向」がテーマで、がん生殖で保存さ

れている卵子を戻す際に起こりうる問題についての内容である。昨年日本産科婦人科学会で着床前診断の考え方が変わったため、今後数年で大きな課題になってくることが予想される。

- ・ 1月10日は「全ゲノム解析に向けたゲノム診療体制構築」について、令和7年度以降がんについても導入されることになるのでテーマに上げている。
 - ・ 県の第4次計画骨子案にがんゲノム医療に関する記載がなかったことについて、国の第4次計画に入ってきたことと、誰一人取り残さないという2つの観点からぜひ追加をお願いしたい。県は対策型の検診ということだけだったと記憶しているが、ゲノム情報に基づいたがん予防も含めてお願いしたい。
- 岡山県：歯科、ゲノム医療いずれも項目として上げることは今のところ考えていないが、内容として入れ込むことは検討していくので、必要に応じて相談させていただければと思う。

⑩ がん・生殖医療部会

○ 6月13日にweb開催された第5回がん・生殖医療部会について報告があった。

- ・ 県から、岡山県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業とR4年申請実績について報告があった。併せて、5月から提出様式が変更になったことも報告された。
- ・ 本部会でもPDCAを回していくことを考えており、昨年度を1年目として3年で1巡する計画で進めている。昨年度は、がん生殖において一人も取り残すことのないような体制を整備することを目標に、「がん生殖医療・妊孕性温存相談・紹介の手引き」、及び全県版の相談フローを作成した。2年目の今年度は、がんの進行度等の諸事情で子どもを得られなかった方も含めて取り残される患者が減らせるよう、相談支援体制の普及を目指すこととした。3年目となる来年度はどの程度達成できたかを調べる予定である。
- ・ 生殖医療関連科がある施設・ない施設、県北と県南、それぞれ事情が違うので、各施設が状況報告を行い、それをどう集約していくか議論を行った。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院
報告事項なし

(5) その他

○ 出席委員Aより、7月7日開催の第16回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会について報告があった。

- ・ 国の第4期がん対策推進基本計画において、研究班で指標・ロジックモデルの検証・検討が強く進められている。その中で、がん対策のPDCA指標・PDCAサイクルに重きが置かれているため、各施設内、県として進めていく必要がある。
- ・ 前回会議でも触れたが、もともと倉敷中央病院にリーダーとしてPDCA部会を立ち上げていただいていたが、コロナの件等で会議が止まっている。そろそろ再開していく必要があるかと思う。後任の先生に県レベルでのPDCAの取りまとめをぜひお願いしたい。

→出席委員B：少しニュアンスが違うかと思う。PDCAはあくまで手法であって各部会が実践しているものである。これを取りまとめるとなると、各施設のPDCA担当者はすべてを網羅しなければならずかなり大変なことになると思う。今までうまくいかなかったのは、具体的に何をすれば良いかわからなかったからではないか。各施設が勝手にテーマを決めてPDCAサイクルを回す形を取っていたが、それは非常に不合理で、その度に各PDCA担当者が何をテーマにすべきかというところから考えていかなければならなかった。最近の流れをみていると各部会でPDCAを回している。PDCA部会でそれを取りまとめるとなると、担当者はすべての部会の担当者とコミュニケーションを取って状況把握・評価をしなくてはならなくなる。大変な作業で負担が重いと思うが、各施設のPDCA担当者にそこまで要求できるか。ただ各部会にデータを報告していただいて取りまとめただけならできるが果たしてそれが部会と呼べるか。

→出席委員A：呼び方は何でも良いが、他県の例を見ると部会というより協議会そのものとなっているようである。親会議に付随するものとして、各施設の責任者が集まって進めているようである。今後どのような形で進めていけるか、あるいはできないか相談させていただきたい。

6 協議事項
特になし

7 その他

○患者会から、がんゲノム医療部会からの報告「周産期医療・・・」について、乳がん患者から卵子凍結を行ったという話を最近聞くようになったのでどのようなお話をされているのか気になるとコメントがあった。患者会向けの講演会も企画していただけるとありがたい。

8 次回開催日

次回は、12月開催予定。

開催日が近くなったら日程調整を行う。

(コロナ収束状況にもよるが、基本的にはweb開催とする)